

ニュースリリース

平成 28 年 7 月 12 日

小森コーポレーション
“Open New Pages”のテーマで drupa 2016 成功に終わる

株式会社小森コーポレーション(東京都墨田区、代表取締役社長 持田 訓)は、5月31日から6月10日までドイツ・デュッセルドルフにて開催された drupa 2016に出展いたしました。その結果につきまして、下記の通りご報告申し上げます。

お問い合わせ先
株式会社小森コーポレーション
ソリューションビジネス推進部 部長 藤巻 陽介
TEL.03(5608)7806 FAX.03(3624)9519

1951年の第1回開催から50年以上にわたり成功を収めている国際総合印刷機材展で、今回16回目を迎えた「drupa 2016」が5月31日から11日間にわたり開催され、6月10日に閉幕しました。

KOMORIは、オフセット印刷機だけでなく、デジタル印刷機、ポストプレス、プリンテッド・エレクトロニクス、資材・機材、これらすべての製品を通して、お客様と共に印刷の新しい可能性を広げること、また、全ての事柄や機能をつなぐことで生まれる新しい価値とソリューションを提供し、より豊かなコミュニケーションを実現することを目指し、提案型の実演や展示を行いました。その結果、さまざまな分野の機械・システムに対して、多くのユーザーの高い興味と関心を集め、本会期中、非常に多くのお客様の来場を頂きました。

オフセット印刷機では、片啜えで両面印刷が可能なおことで、ひととき注目を集めたLITHRONE(リスロン) GX40RPを軸に、今回フルモデルチェンジをした菊半裁機・LITHRONE G29まで、さまざまな機械サイズでメイクレディタイムの削減、フルオートメーション、品質検査体制の強化をテーマに、連日、非常に多くの集客を集め、欧州、北米、アジア他世界の各地から相当数の受注がありました。またデジタル機では、今回、正式に販売を開始したImpremia(インプレミア) IS29は、プレコートが不要で用紙を選ばないといったコンセプトが、多くのデジタル系プリンターの賛同を得て、欧州、北米だけでなく、アジア、特に中華圏からも大きな関心を集め、同地域で大きく事業を拡大しているアルトロン社は、Impremia IS29の想像を超える品質の良さや小森のマシンの信頼性を高く評価され、複数台の導入を示されました。

また、参考展示したナノグラフィックプリンティングシステムを搭載したImpremia NS40もオフセット印刷と変わらない品質、スピード、また特徴である色域の広さを目の当たりにした多くのお客様に驚きと将来への期待を感じさせ、北米でも有数の印刷会社である4Over社を始め、予想をはるかに上回る、LOIを獲得することができ、drupa2016は販売上においても、大きな成果を持って終わることができました。

KOMORIの出展概要をご紹介します。

drupa 2016では、メインテーマに昨年のIGAS 2015と共通の“Open New Pages”、サブテーマを“Connected Print”として出展しました。

ブースには、新製品2機種を含む4台のオフセット枚葉印刷機(すべてにH・UVを搭載、うち1台はH・UV L(LED))、枚葉インクジェットデジタルプリンティングシステムImpremia IS29、枚葉ナノグラフィックプリンティングシステムImpremia NS40のほか、断裁機Apressia(アプリア) CT137を出展しました。

■ Connected Print with ICT

KOMORI ICT Solutionsは最新のICT技術を用い、印刷製造プロセスを「つなぐ」ことによって、工程の見える化、自動化、省力化を実現し、印刷会社の生産性の向上を強力に支援する印刷機メーカーKOMORIならではのソリューションシステム群の総称です。会場では、KOMORI ICT Solutionsが実現する、印刷機稼働の見える化・工程管理・ワークフローオートメーションの3つを、デモンストレーション動画を交えてプレゼンテーションしました。

■ 実演

実演は、次世代へ向けたコンセプト”Connected Print”のもと、オフセットとデジタル、ハードとソフトなどをつなぐことで生まれる新しい価値や可能性を示すトータルソリューションの提案を1日3回ずつ行いました(最終日を除く)。特に、IGAS 2015より受注・販売活動を開始したデジタルプリンティングシステムImpremia IS29や、今回初披露の新しい印刷システムImpremia NS40の実演は大盛況でした。また、設備と資材をトータルサポートするソリューションとして、オフセット印刷機の実演すべてにおいて、KOMORIの印刷機に最適なK-Supplyインキを使用しました。

【LITHRONE GX40】

H-UV搭載LITHRONE GX40の実演では、18,000回転のH-UV速乾印刷で食品と医薬品のパッケージ制作のビジネスモデルをご提案しました。分光式色調管理装置PDC-SXや、印刷物の不良を高精度で検査するPDF照合装置などの機能により、今後より一層厳しくなるであろう医療品や食品パッケージ印刷への要求に対し、本生産への素早い立ち上げと高い品質管理が可能なことを確認いただきました。

【LITHRONE GX40RP】

最新鋭のLITHRONE GX40RPは、反転機構がなく紙尻の余白が不要な片喰え構成で用紙コストを抑え、薄紙から厚紙まで18,000sphの安定したワンパス両面印刷が可能です。実演では、印刷速度や工程・切り替え時間を表示しながらフルオートメーションで高生産を実現する最新技術と、素早い印刷立ち上がり・究極のメイクレディー性能を確認いただきました。切り替え工程では、全ユニット同時版交換システムA-APCによる8版同時交換と、ブランケット自動洗浄・KHS-AIインキ設定を同時に行う世界初搭載の平行制御システムが活躍しました。

【LITHRONE G37】

ヨーロッパで初披露のLITHRONE G37は、A4×8面付け・菊全判まで対応可能なA全判機として、スペース・エネルギー・刷版コストを削減し、高効率で低コストの生産環境を提供します。今回の出展機は、乾燥システムH-UVに新たにラインアップされたLEDタイプH-UV Lを搭載しているため、速

乾印刷も可能で、出版や商業印刷など薄紙から厚紙の幅広い印刷ニーズに威力を発揮します。ほかにも、全自動刷版交換装置Full-APC、新搭載の色調管理装置PDC-SG、インライン色調制御装置:PQA-S SGを設備し、多品種小ロットに最適な性能を披露しました。

実演では、H-UV L (LED) 対応のK-Supplyインキを使用し、最高速度15,000回転のドンテン印刷を行いました。片面機でも高い生産性のショートラン稼働を実現するH-UV L (LED) の速乾性能を体感いただきました。

【LITHRONE G29+Apressia CT137】

デザインを一新した初登場の新製品LITHRONE G29は、5色・コーター・延長デリバリーの構成で出展しました。実演では、厚紙・薄紙のH-UV速乾印刷にて、最新システムによるさらなる高生産性を体感いただきました。

出展機は4Kカメラ搭載の印刷品質検査装置PQA-S V5による高精度の検査とインラインカラーコントロールが可能で、最高印刷速度でも高い印刷品質を維持します。分光式色調管理装置PDC-SXの色調と見当の測定、PQA-S V5のインラインカラーコントロールで色調を維持し、高い品質レベルと高生産を実現する様子をご確認いただきました。薄紙から厚紙、多彩なユニット構成での高付加価値印刷まで、新たなLITHRONE G29はその高品質と機動性でフレキシブルな生産環境を提供します。

【Impremia IS29】

Impremia IS29は、幅広い紙厚とサイズ、片面・両面印刷に対応し、専用紙やプリコート不要で様々な用紙に高品質な印刷が可能です。オフセット印刷機と同じ爪・爪方式の紙搬送装置による高い見当精度と、UVによる速乾と両面ワンパス印刷ですぐに後加工へ回すことができ、多品種・小ロット・短納期を実現します。

今回は印刷会社がファッションブランドに販促提案するビジネスモデルとして、オフセットとカラーマッチングした少数カタログ、ポスター、紙フォルダーを出力しました。ほかにも、商業印刷ではLITHRONE GX40RPとのカラーマッチング、パッケージ印刷ではオンデマンドパーソナルパッケージのデモも行いました。

【Impremia NS40】

KOMORIは2012年にLanda社と戦略的ビジネスパートナーシップを結び、革新的な「ナノグラフィックプリンティングシステム」と印刷プロセスの開発を追求してきました。そして、生産機に必須である印刷品質・印刷速度・ページあたりのコスト・印刷サイズ・用紙適性を備えたImpremia NS40をdrupa 2016で披露しました。

1ジョブ目では画像をバリエブルで約50枚出力し、2ジョブ目ではポスターの連続印刷を行いました。

最高印刷速度6,500sphでのバリエブル印刷から、切り替えを含め3分程度でジョブが完了する様子を、デリバリーのカメラで確認いただきました。

■K-Supply／サービスコーナー

K-Supply(専用消耗品、資材・機材)商品のご紹介をはじめ、DCブローア、リアル稼働モニター(電力消費監視装置)など、既設機や工場の省エネに寄与する商品を展示しました。

KOMORIでは、K-Supplyのブランド名で、KOMORI製印刷機に最適化された専用消耗品や資材・機材をラインアップしています。K-Supplyは単なる消耗品ではなく、高い印刷品質とパフォーマンスを実現するためにKGC(コモリグラフィックテクノロジーセンター)のノウハウを結集して開発された資材です。すべての出展機には、K-Supplyを使用しており、なかでもK-Supplyインキは、H-UV印刷に最適な硬化性・品質・汎用性・経済性をハイレベルに備えたKOMORI標準のH-UVインキです。

■KOMORI Ecologyコーナー

KOMORI が提唱する「グリーンコンセプト(それぞれが共生することで、相互のバランスが保たれた穏やかで明るい未来を築くこと)」のもとに取り組んでいる生産環境の構築や製品開発の現況をご紹介します。

■オフ輪・シャンボンコーナー

速乾システムH-UVを搭載したオフセット輪転機「SYSTEM G38」の印刷サンプルや、H-UV枚葉機で同絵柄を印刷した比較サンプルを展示したほか、KOMORIシャンボン社で生産されているパッケージ向けインライン印刷機をパネルにてご紹介しました。

■プリントギャラリー

プリントギャラリーでは、3Dレンチキュラーや高付加価値印刷などのサンプルを展示しました。その中に紙幣印刷のコーナーを設け、国内をはじめ海外でも広く使用されているKOMORIの紙幣・証券印刷機の偽造防止技術の説明や、凹版と印刷物などのパネル展示を行いました。また、KOMORIのPE・精密機器事業を担うセリアコーポレーションのスクリーン印刷法による印刷サンプルも展示しました。

お陰様で、KOMORIブースは連日大変多くのお客様にご来場いただき、大盛況のうちに終わることができました。ご来場下さいました皆様に感謝申し上げます。次回のdrupa 2020でもお会いできますよう、社員一同楽しみにしております。